

継続事業評価調書

【自転車道事業】

土木局道路保全課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

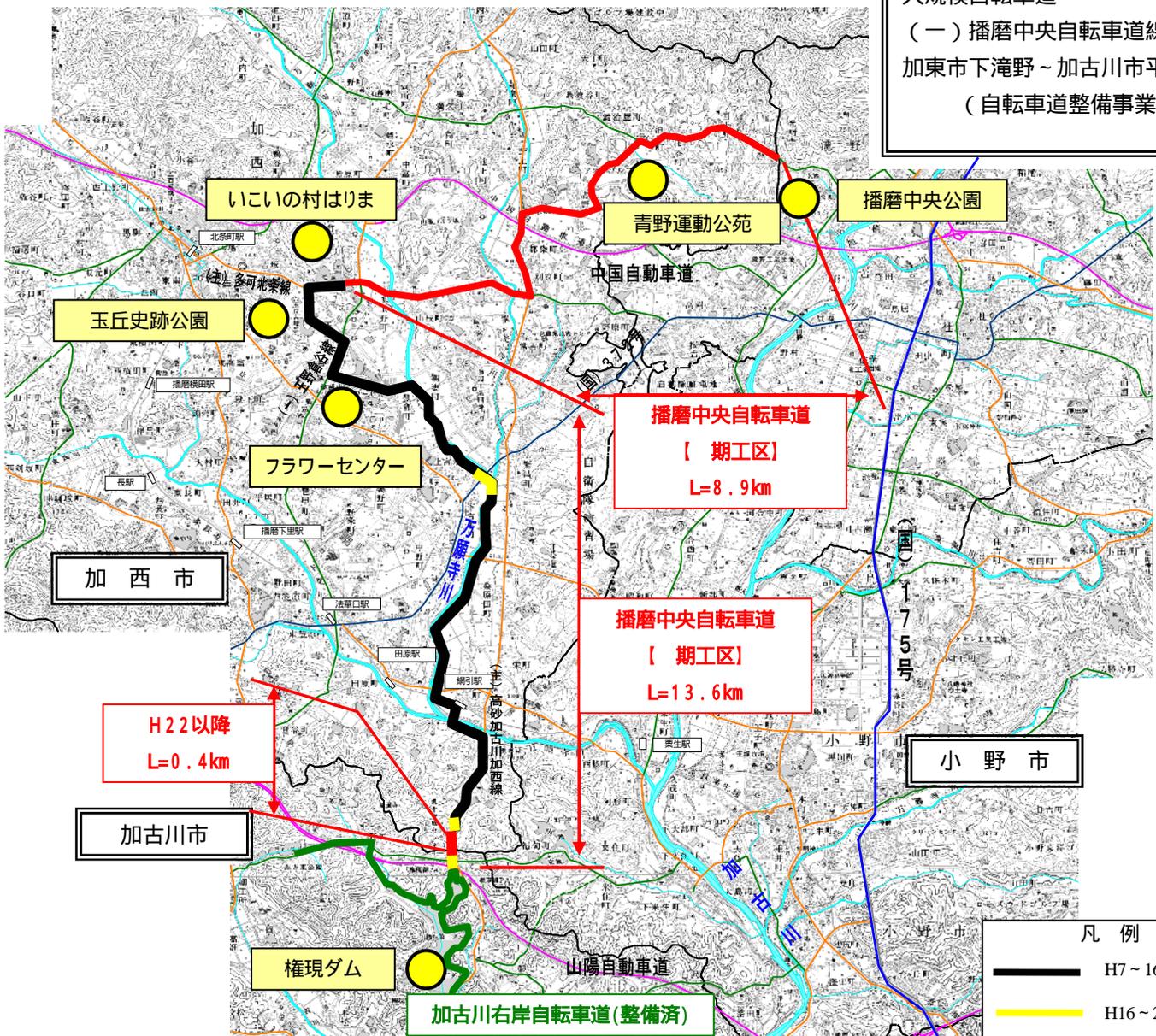
部課室名	道路保全課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路保全課長 杠 典英 (交通施設係長 鎗水 正和)	内線	4389 (4399)
事業種目	自転車道事業	事業採択年度	H7		現計画 再評価時点
事業名	(一)播磨中央自転車道線	着工年度	H7	総事業費	27.7 億円 27.7 億円
		再評価年度	H16	内用地補償費	8.1 億円 8.1 億円
事業区間	加東市 ^{しもたきの} 下滝野 ~ 加古川市 ^{へいそう} 平荘町	完成予定年度	H28	H24	
		進捗率 (内用補進捗率)	約78% (約80%)	約68% (約77%)	
所在地	加東市 ^{しもたきの} 下滝野 ~ 加古川市 ^{へいそう} 平荘町	残事業費	約6.2 億円	約8.9 億円	
事業の目的			事業内容		
<ul style="list-style-type: none"> 播磨中央自転車道は既設の加古川右岸自転車道線を経由して人口の集中する播磨臨海部と豊かな自然、歴史に満ちた播磨内陸部とを結ぶ自転車道である。 播磨中央自転車道と加古川右岸自転車道とが繋がることでレクリエーション施設及び名所旧跡等を結ぶ加古川流域を中心とした自転車道ネットワークが形成され、観光レクリエーションの振興に寄与するとともに、自転車の利用による県民の心身の健全なる発達に資する。 			全体延長 L=22.5 km 【期工区】L=13.6 km (権現ダム~いこいの村はりま) 幅員 W=3.0(4.0) m 【期工区】L=8.9 km (いこいの村はりま~県立播磨中央公園) 幅員 W=3.0(3.5) m 【負担割合】国5/10 県5/10		
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<ul style="list-style-type: none"> 近年、自転車は、排気ガスや騒音を出さない環境負荷の低い交通手段として見直され、健康志向の高まりを背景に、その利用ニーズが高まっている。 				
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> H21 年度末までに延長 13.2 km 区間の整備が完了する。 期工区については平成 19 年度の供用を目指して整備を進めてきたが、用地取得の際に地図訂正や共有名義(28名)地の権利者の確定に時間を要したため、工期を延伸する。 H22 年度中に用地取得を終え、平成 23 年度に事業完了予定。 H16 に学識者・地元関係者・行政で構成する「ふるさと交流委員会」で播磨中央自転車道の利用促進策及び期工のルート案について検討を行った。 現在、利用促進策の実施主体となる県・加西市・加古川市で構成する「播磨中央自転車道利活用検討協議会」で利用促進策の実施手法を検討している。 				
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> 播磨中央自転車道と加古川右岸自転車道とが連結されることにより、高砂海浜公園から平荘湖・権現ダムを経由して加西フラワーセンター、玉丘史跡公園、いこいの村はりま、播磨中央公園に至る加古川流域の自転車道ネットワークが形成される。 県民や観光客が自転車を利用することで心身の健全なる発達に資する。 				
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> 期工区が整備されることにより、いこいの村はりま、北条町駅及び加古川市立少年自然の家等のレンタサイクル拠点(約124台)とレクリエーション施設とが自転車道で繋がる。 現在、供用区間は高校生の通学路や加西市のイベント等に利用されているが、加古川右岸自転車道と連結することにより、加古川右岸自転車道での各種イベントとの連携を図り、より一層の自転車道の有効利用が見込まれる。 また、期工区の整備により、青野運動公苑、播磨中央公園までの観光・レジャー施設が自転車道でつながり、利用促進が図れる。 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 透水性舗装の採用により、雨水の地中への還元が図れる。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 早期に加古川右岸自転車道と連結して事業効果の発現を図り、利用促進を図るため引き続き整備を進める必要がある。 				
再評価の結果	継続	左の理由	<ul style="list-style-type: none"> 期工区については、残区間の整備により既設の加古川右岸自転車道とが繋がり、加古川流域の自転車道ネットワークが形成されることから、引き続き整備を進める必要がある。なお、期工区は、各種利用促進策の効果や地元の気運の醸成を見極めた上で、必要に応じて計画内容の再検討を行う。 		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第2回〕）

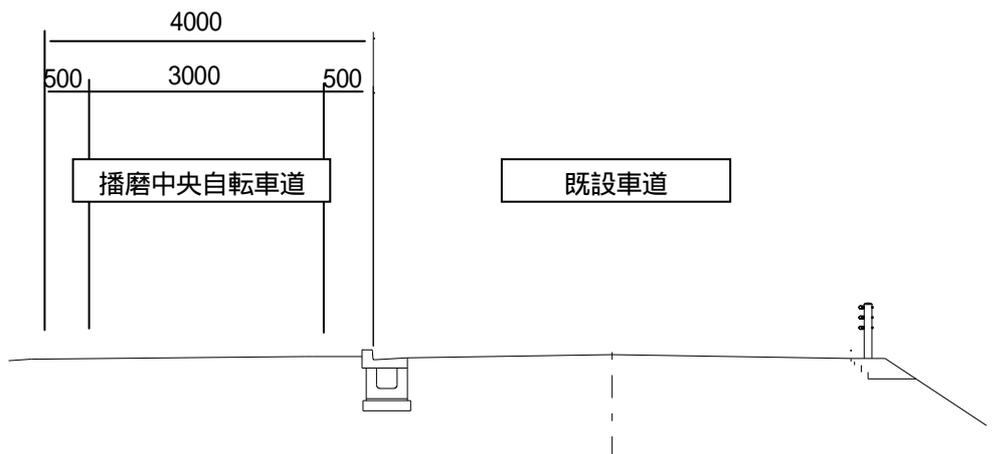
事業名	自転車道整備事業	路線・河川名	(一) 播磨中央自転車道
		事業進捗状況・予定	整備効果
全体	<p>H7～H28年度【事業費＝27.7億円】 【全体】 L=23.5 km、用地約 61,000 m² 【期工区】H7～H23 L=13.6 km C=約 22.7億円 用地約 48,000 m² 【期工区】H24～H29 L=8.9 km C=約 5億円 用地薬 13,000 m²</p>		
前回再評価まで（実績）	<p>H7～H16年度【事業費＝約 18.6億円】 【全体】 進捗率約 68%、用地進捗率約 77% 【期工区】C=約 18.6億円 整備延長 L=12.0 km 【期工区】 整備ルートを検討</p>		<p>期工区 L=13.6kmのうち、L=12kmを供用し、権現ダム～いこいの村はりままでの区間延長の約88%が完成</p>
過去5年間（実績）	<p>H17～21年度【事業費＝約 2.9億円】 【全体】 進捗率約 78% 用地進捗率 約 80%（H21年3月末） 約 80%（H22年3月末予定） 【期工区】C=約 2.9億円 整備延長 L=1.2 km</p>		<p>加西市玉野から加西市網引まで繋がり、整備区間の連続性が確保された。</p>
今後7年間（予定）	<p>H22～28年度【事業費＝6.2億円】 【期工区】C=約 1.2億円 平成22年度 用地補償完了予定 平成23年度 整備完了予定 【期工区】L=8.9 km C=約 5億円 平成24～28年度</p>		<p>加古川右岸自転車道と接続し、加古川流域を中心とした自転車道ネットワークが形成される。</p>

概要図

大規模自転車道
 (一) 播磨中央自転車道線
 加東市下滝野～加古川市平荘町
 (自転車道整備事業)



標準断面図



計画及び実施工程

		H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
期工区	調査・設計																						
	用地補償																						
	本工事																						
期工区	調査・設計																						
	用地補償																						
	本工事																						

凡 例

当初計画
 実施計画

現況写真

